

土を考える会 エリア研修会 北海道 道央&中央支部 2016 乾田直播技術向上セミナー 乾直祭りだよ

▶1月21日
(北海道札幌市)

乾田直播を楽しむ学ぼう

小雪がちらつき、朝は氷点下10℃を下回る1月中旬の北海道。その日、札幌に向かう乾直人は何に想いを馳せながら、集結地へと道を急いだのだろうか。

乾田直播に挑む者たちの集い「2016 乾田直播技術向上セミナー」は、道内キャラバンから3回目の催しとなる。去る1月21日、ホテルポールスター札幌で100名を超える参加者と共に開幕された。主催は北海道土を考える会の道央・中央支部の両支部。遠くは九州から参戦。乾直はいまや革新技術ではなく、北国の稲栽培の一角を担う、当たり前の技術である。年に一度、技術を体得したい挑戦者らが集う、いわば同窓会の場となった。

初心者講習会は大勢でにぎわう

午前の部は恒例の初心者講習会からスタートした。乾直若葉マークの方への語り手を務めたのは、佐藤準士相談員（スガノ農機株）、上富良野営業所所長）。この数年で現地指導の経験を重ね、話の内容に見せる写真、伝わる熱意も十分である。いままよよろず相談所のエースである。初心者だけでなくベテランも加わること、楽しくも緊張感ある90分

の勉強会となった。

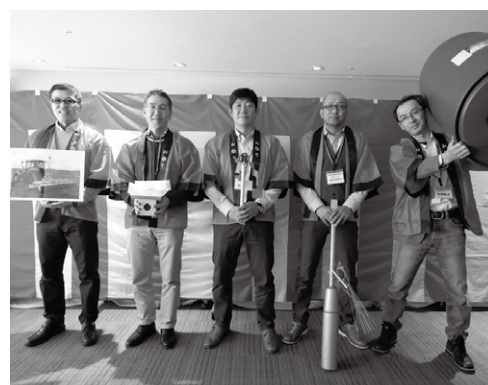
種籾と乾直の必需品を奉納

会場入り口に紅白幕。午後の部スタート時点の会場は真っ暗。雅楽のBGMが流れ、均平機の発光機の赤いレーザー光線が宙に舞うなか登場したのは法被を着た「乾直の王者」の男たち。

その直後、入場行進が始まる。先頭は御幣（お祓い用の棒のこと）を持つ私、齊藤義崇。新田慎太郎氏、岩見沢市、乾直歴14年）が諸盛りの乾籾を、西谷内智治氏（岩見沢市、乾直歴8年）が特大調査用ドライバを、河合雅記氏（秩父別町、乾直歴7年）がレベラーの写真を、水間健詞氏（名寄市、乾直歴7年）はラウンドアップ200レドラム缶を持って続いた。

王者4名の持つグッズは、乾田直播には欠かせないものばかりだ。4つの品が祭壇に見立てた演題にそろい、お祓いが始まった。会場に起立の声がかかり、参加者一同がそろって「二礼二拍手一礼」し、午後の部がスタートした。

北国の春。稲の萌芽環境は厳しい。この20年の乾直の歴史で一番かわいそうなのは、籾だ。多いときには7割が死滅したこともある。出芽できなかった種籾を奉り、乾直を当たり



入場行進をした5人の「乾直の王者」たち

前の稲の栽培技術としてくれた品を奉納する。神事に似た儀式で厳かな雰囲気が出された。

ノミニーが北海道でも認可

総合司会は中央支部長の田村裕良氏（妹背牛町、乾直歴9年）。午後の部の開会が宣言され、講演の部がスタートした。

トップバッターはクミアイ化学工業（株）の松澤氏。除草剤「ノミニー」について、岩見沢での現地試験の成績、使い方や薬害などを解説した。振り返れば、第2回雪国直播サミット in 東北（2010年）で岩手県花巻市の盛川周祐氏がノミニーを処理した圃場を見せてくれた。それから北海道で登録認可が下りるまで、じつに7年の歳月がかかった。



会場を盛り上げた「乾直横断ウルトラクイズ」



直装式レーザーレベラーについて熱く語る長門茂明氏



総司会を務めた中央支部長の田村裕良氏

参加者の関心は高く、60分があったという間に過ぎた。効能が優れるため、参加者らはこれを使わぬ手はないと、終始真剣な面持ちで講習を受けていた。

直装式レーザーレベラーの軌跡

2番手は「レーザーレベラーの軌跡」と題して、長門茂明氏（道央支部長、元・スガノ農機レーザー均平機の開発・設計者）が講演した。

冒頭にヒューマンドキュメンタリー『乾田直播への道』（製作・著作・スガノ農機）が上映され、乾直に懸ける想いとレーザー均平機の作業体系を眺めた後、初号機の画像が映し出された。

長門氏は、スガノ農機時代に、上司の直装式レーザーレベラーの製作に懸ける想いを形にした技術者である。まさにこの画期的な機械は、長門氏の試行錯誤と、現場で果敢に挑戦した乾直実践者の努力の賜物に他ならない。「直装式なくして、乾直に成功なし」。この20年には直装式レーザーレベラーの効果実証の歴史が凝縮されている。なお、初号機は長門氏の圃場でいままも活躍中とのことである。

「ウルトラクイズ」の再来

休憩を挟んで始まったのは、私が

司会を務めた「乾直横断ウルトラクイズ」。昨年の雪国直播サミットで好評だった参加型イベントである。ルールはいたってシンプル。クイズ出題後、参加者は〇×ゾーンへ移動すると、各出題内容に詳しい参加者が正解を伝え、解説を加える。正解した者だけが勝ち残る。

10問が終わったところで正解者は減り、2名が勝ち残った。ひとりJAいわみざわの江戸指導員。2人目はなんと、九州は福岡県から参加の結城良裕氏。商品はプラウ型スプレーンと乾直ステッカー、10俵取り指南書（製作・JAいわみざわ）。決勝戦の3ポイント勝ち抜けは次回に持ち越され、にぎわった。

10社による出店交流

祭りといえは出店。今年は乾直を支援する10店舗が開店した。

参加企業を順に紹介しよう（いずれも略称）。農業窓口はコハタ、ダウケミカル、Mei;、住友化学、日産化学の計5社。機械・機器メーカーは、レーザーとGPSでおなじみのニコン・トリンプル、無人ヘリとドローンを展示するスカイワークの2社。肥料窓口は北海道肥料。緑肥の相談に雪印種苗が初参戦した。

さらに、よろず相談所には石垣秀樹氏、佐藤準士氏（いずれもスガノ

農機）、齊藤（アドバイザー）の3名で対応した。参加者らは会場内を自由に歩き回り、縁日さながらのにぎやかな装飾と催しは、最高の交流の場となった。

この後に閉会が宣言され、笑いにぎわう昼の部が盛会のうちに幕を閉じた。そして、夜の部に突入し、にぎわいは最高潮に。クイズの勝利者を囲む数人の集まり、出店メーカーに聞き足りないことを探るベテラン乾直人、今年の鋭気を養うために同志と会話を弾ませる土を考える会の会員の面々。あつという間の情報交換会となった。（齊藤義崇）



この日集まった、北国で乾田直播に挑む乾直人と仲間たち